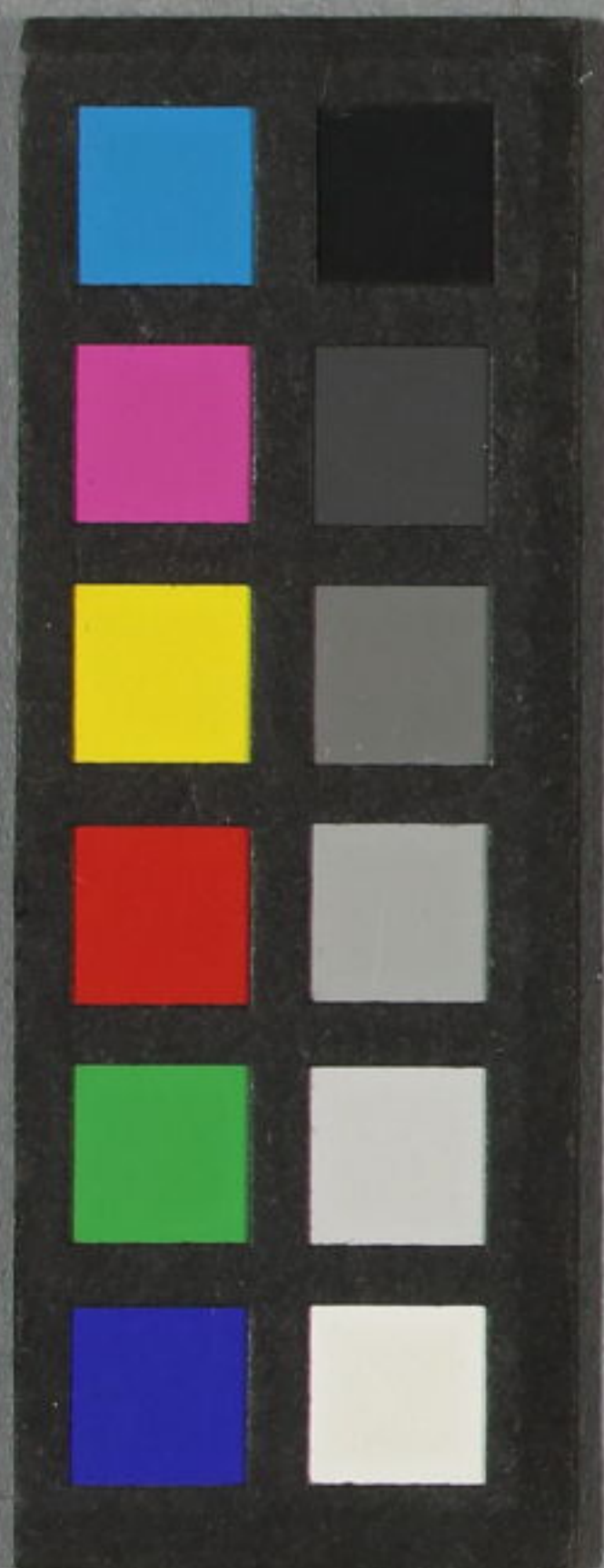




^13
3863
2 (2)

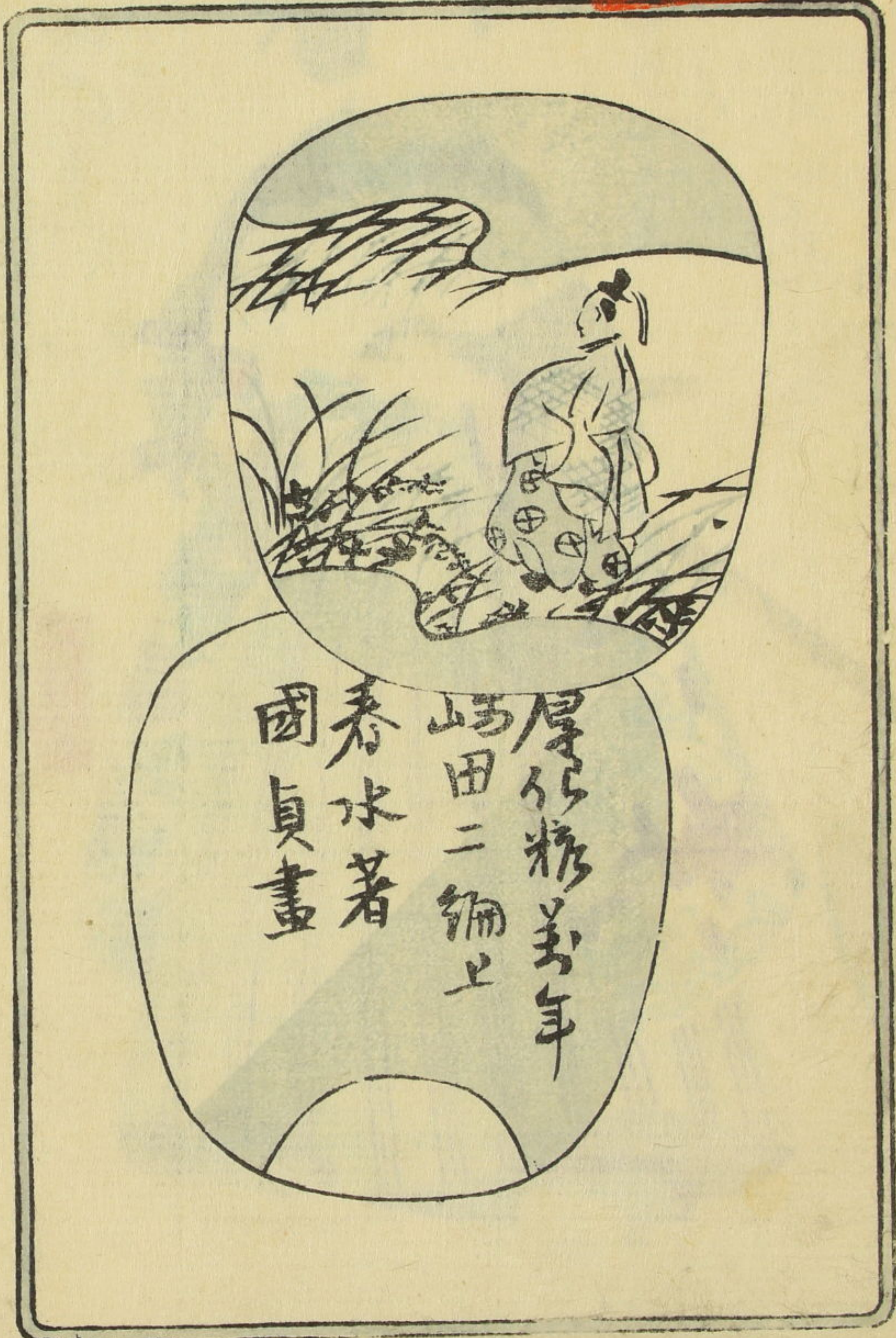


^13
3863
2(1)





門へ13
 號3863
 卷才2(1)



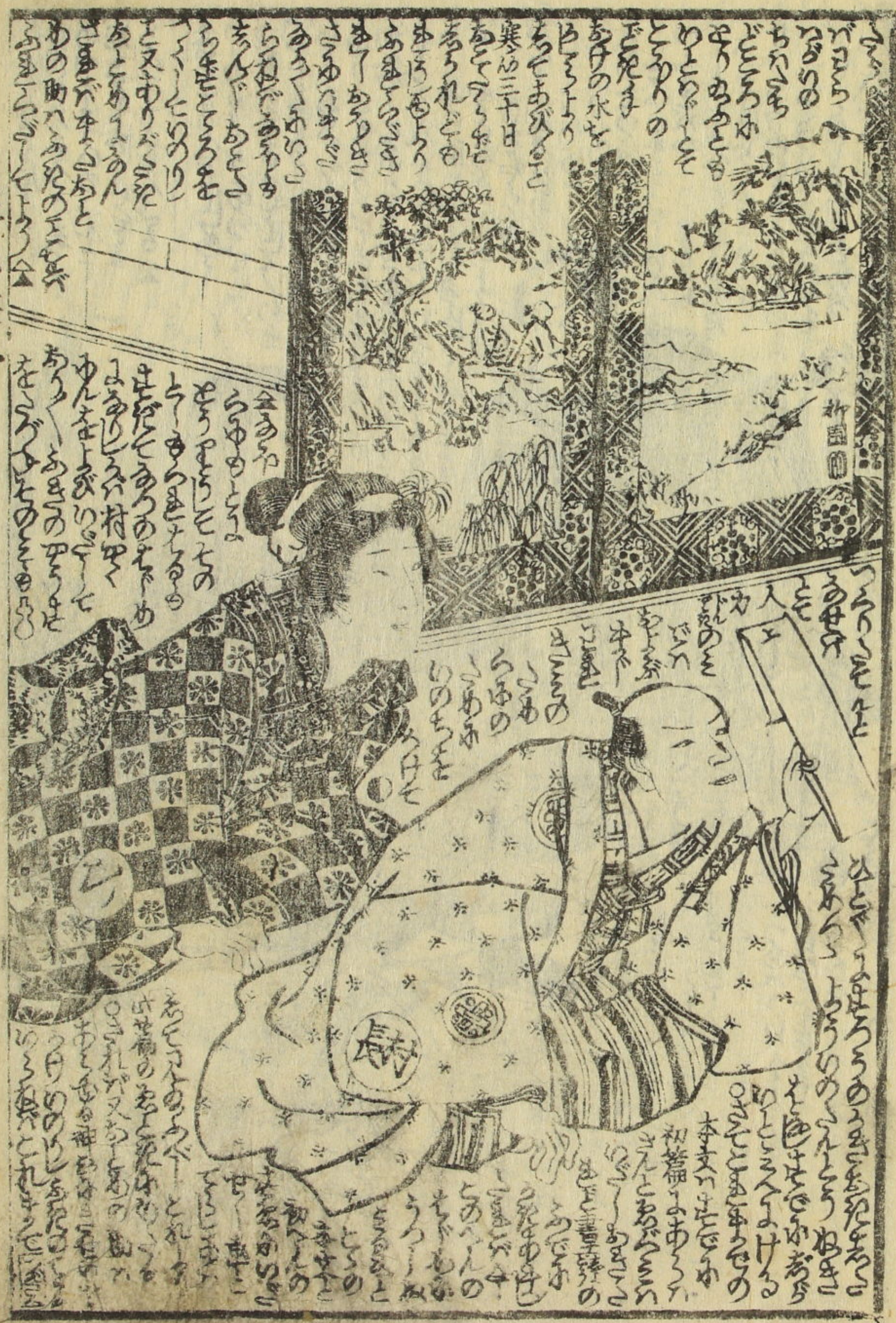
一

菜露とつるも草の名、茗荷とつるも草の名といひ琴の
 名小の組唄あるがその露をもて序開きの趣向あり
 くる冊子あれど水路の和らるる小那露の臺の苦さを
 加へ香よ白の味もる兒作者が筆の擱と料理世話と
 時代の切和物のあんな目の肥と看官の迎もか口小合ふとと
 思ひの他は初編くら駄物も御意小入り、爰小二編の
 お替りを重めらるる小乗りが来り胡より先へ摺る墨の
 曲り形も編を重ねが書房が廊の富貴自在かの
 黄金の得あり冥加のせまんとあつふ。

戊辰
 新春

爲永春水記



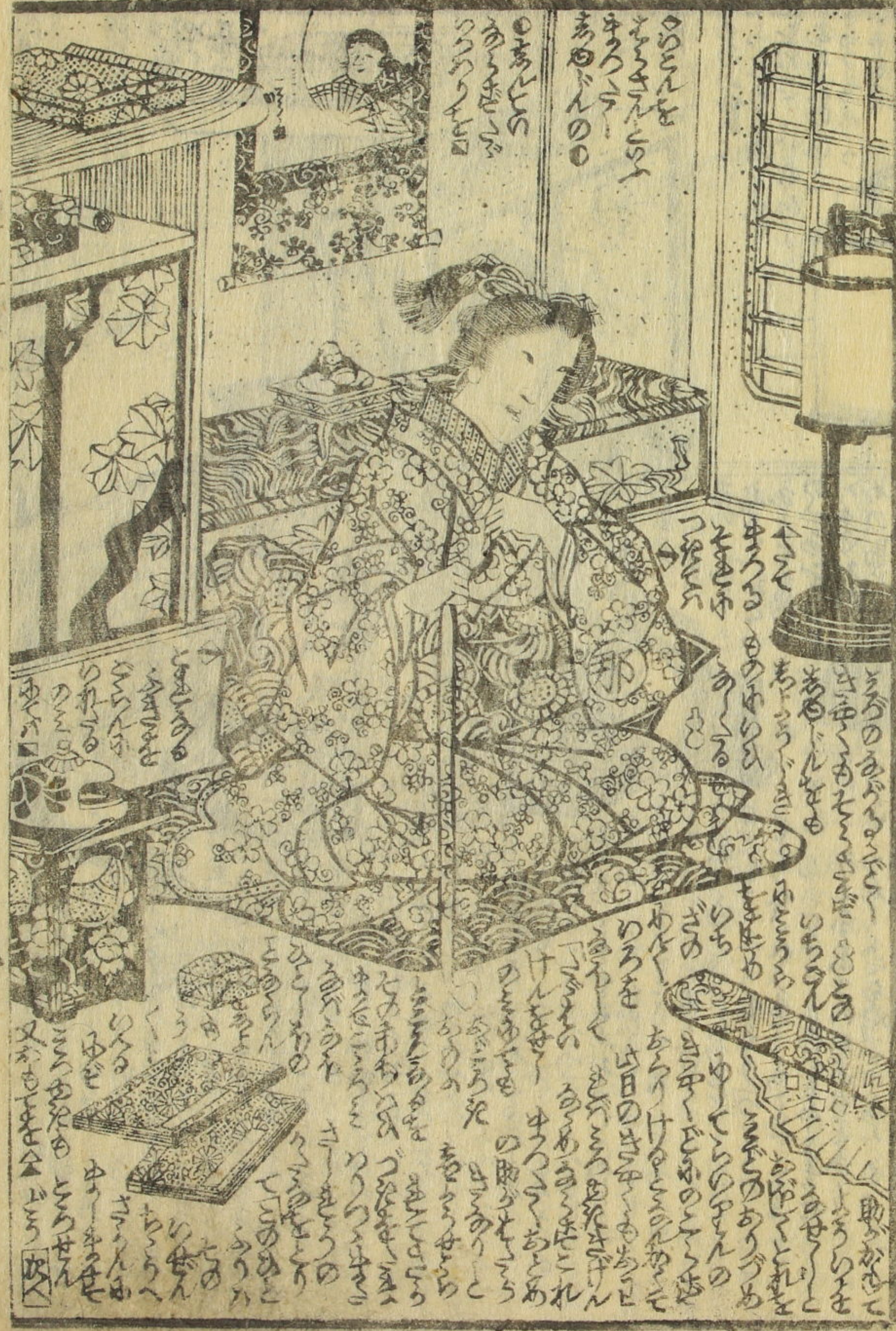


五十七

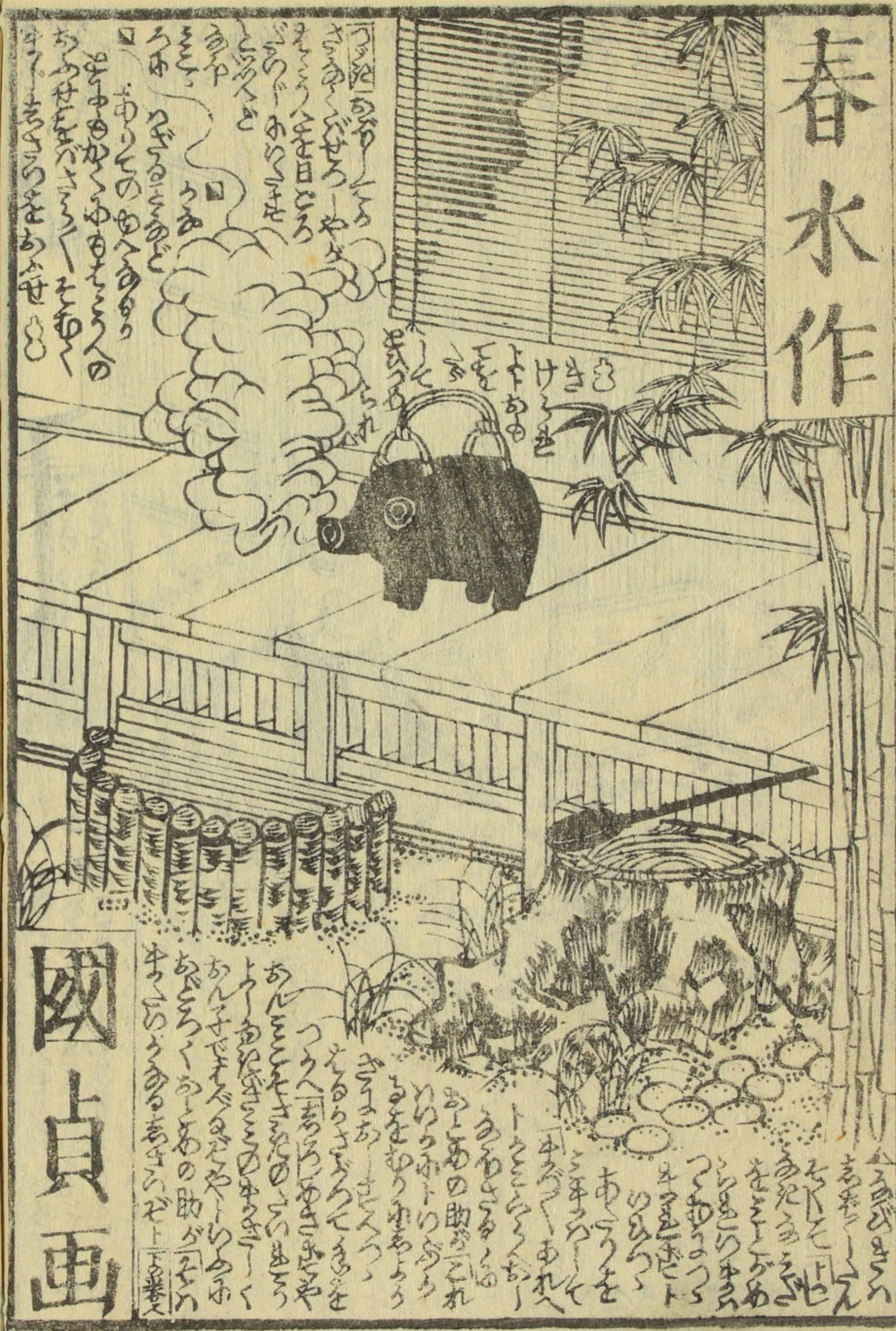








春水作



國貞画

春水作の
 猪の形に
 貯蓄の意
 ありて
 煙の立ち
 出づるは
 富の増え
 たるを
 示す也

猪の形に
 貯蓄の意
 ありて

國貞画の
 巻物の
 積み重ね
 は
 知識の
 蓄積を
 表し
 煙の
 立ち
 出づる
 は
 富の
 増え
 たる
 を
 示す

寶母散

私家東母の人の養育の中を
 一を年未賣取のありし中
 向ふより引くつりし中
 中橋南傳馬門の自東の
 葉詩士と号す師製

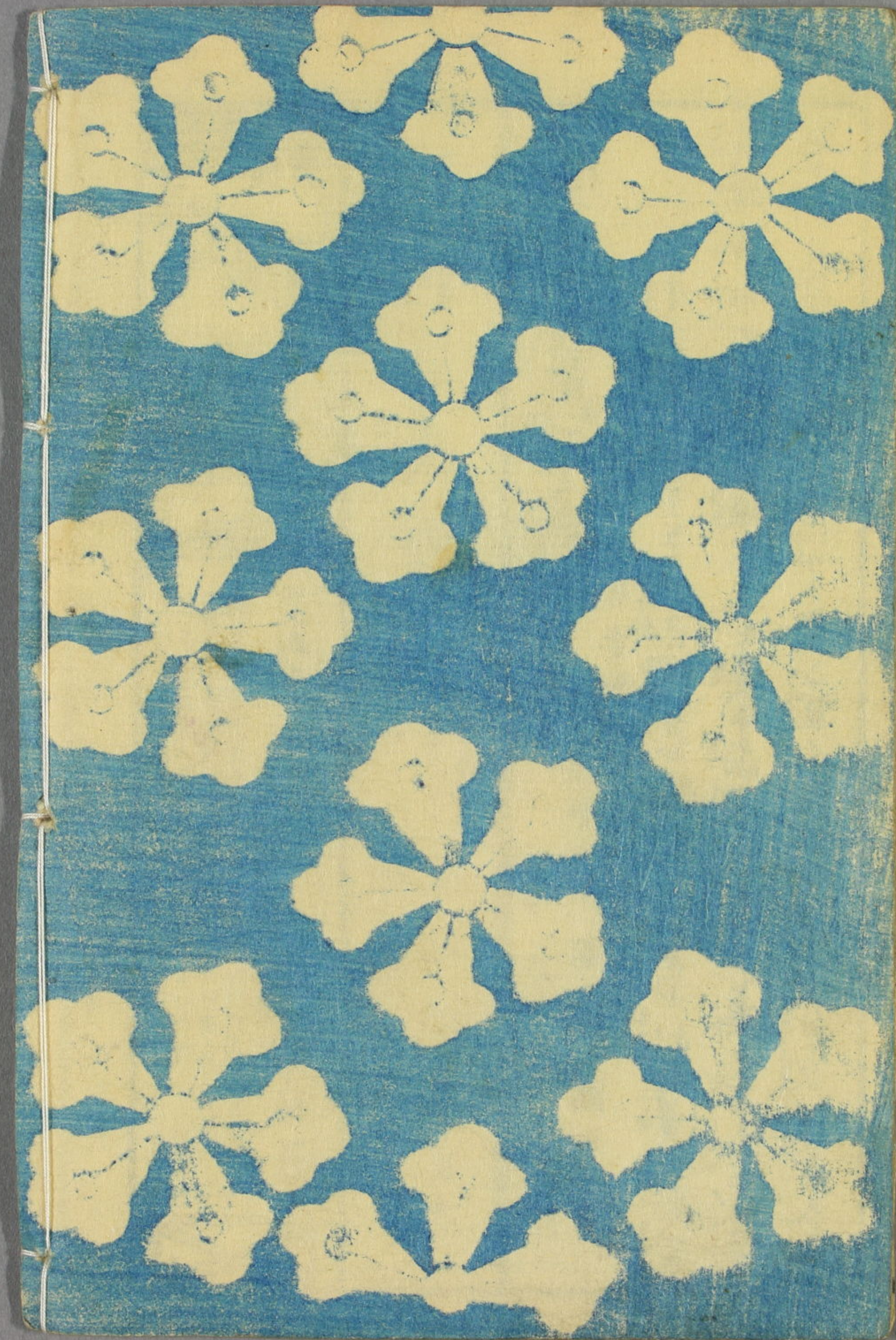
鼠祠通夜譚

四編より
 八編まで
 出板仕り
 柳亭種彦作
 梅蝶樓國貞直

厚化粧萬年嶋田

初篇より
 追々出板
 爲永春水作
 梅蝶樓國貞直

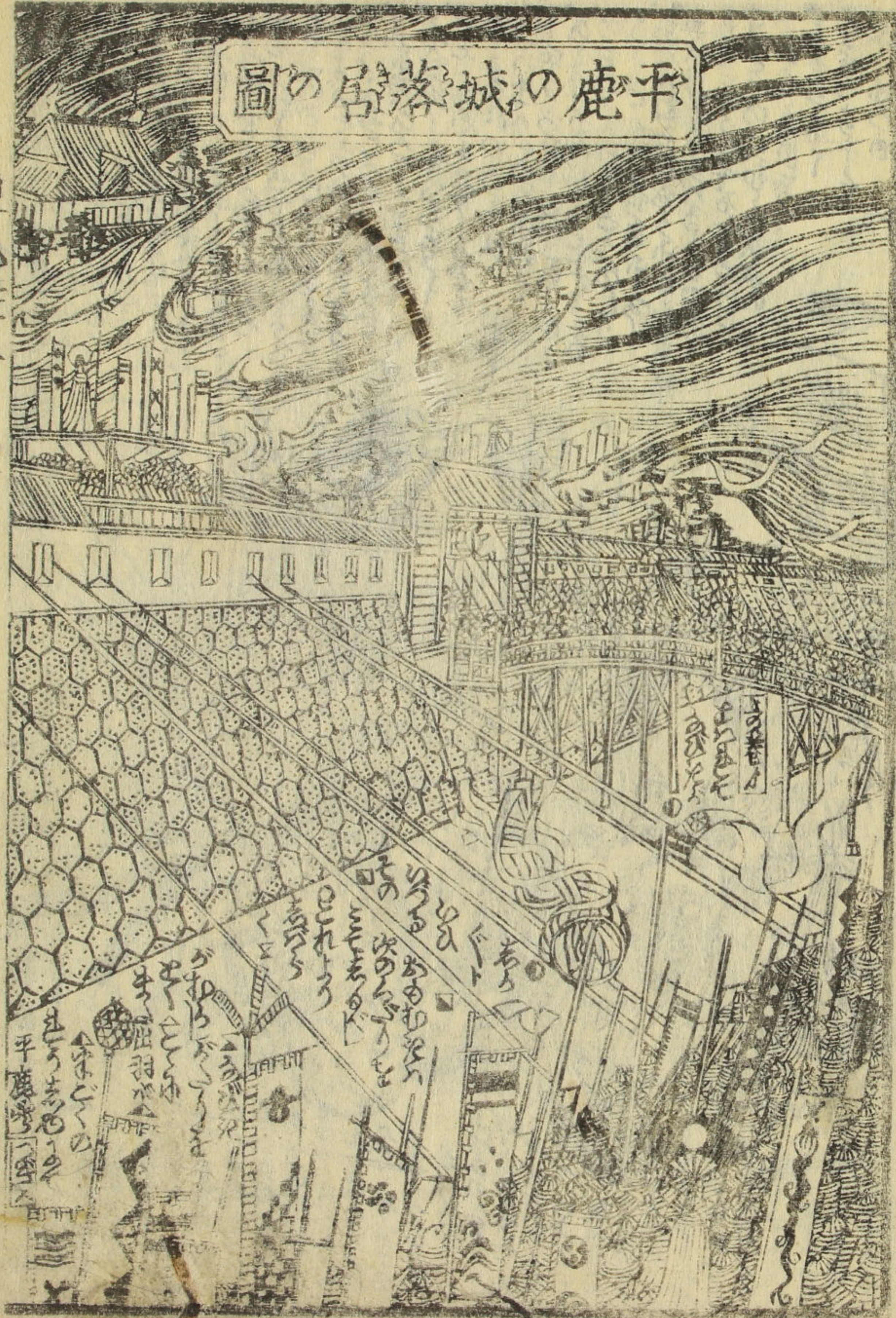
この世は普く沙汰せらるる
 姐已阿百の傳ゆ
 是れ和尚眞の惡靈
 寶鏡若田の家小仇做んと
 爰小忠臣孝女ありて
 渠々毒手の中苦み
 ありて
 哀れなる
 花の
 宜く理の
 草紙の
 多ん





13
3863
2 (2)

平鹿城の落居の圖



13
3863
2(2)



あつち
ん
か
ん
し
ん
の
た
だ
め
に
二
月
下

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the top of the right page.

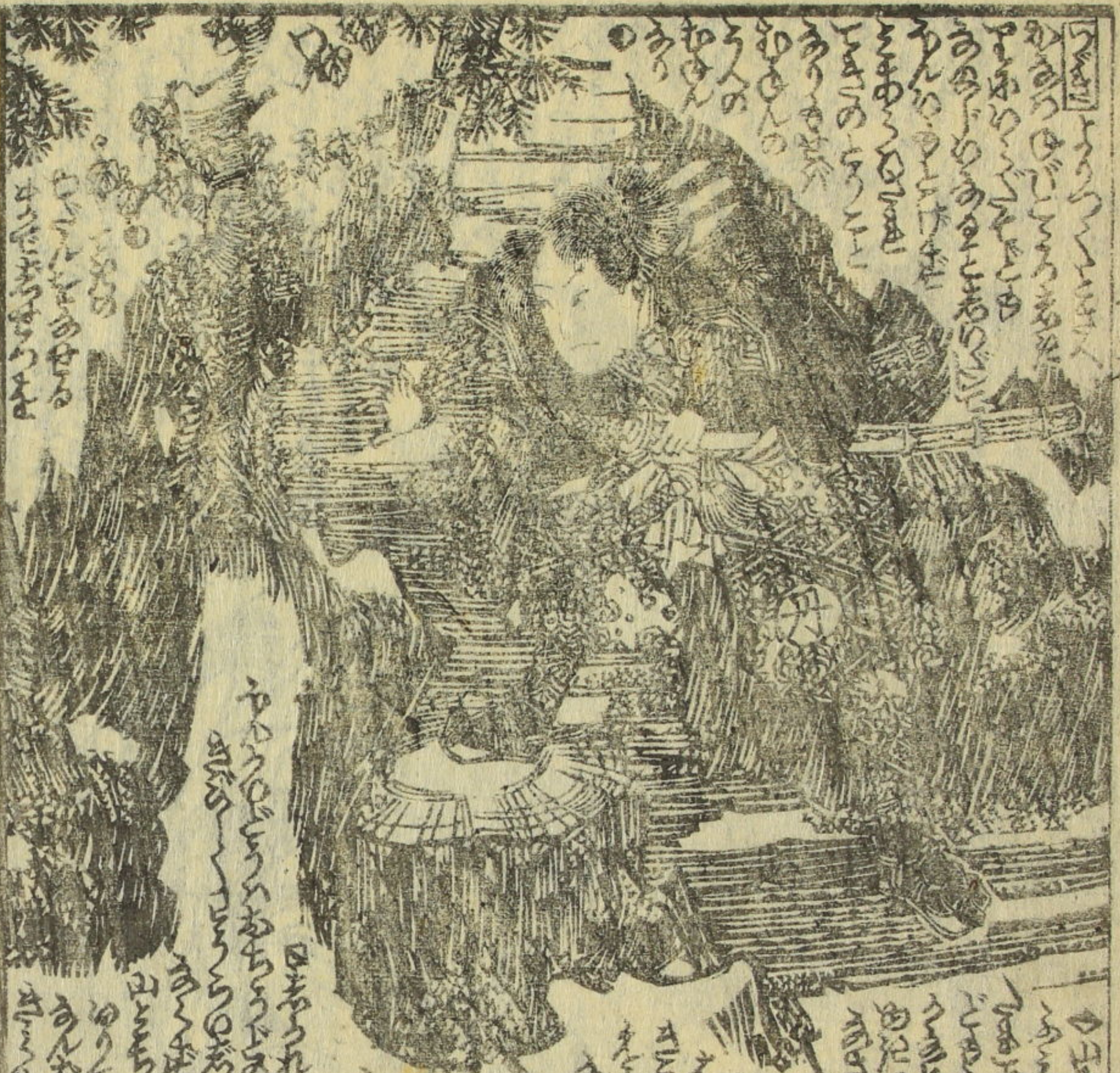


Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the bottom of the right page.

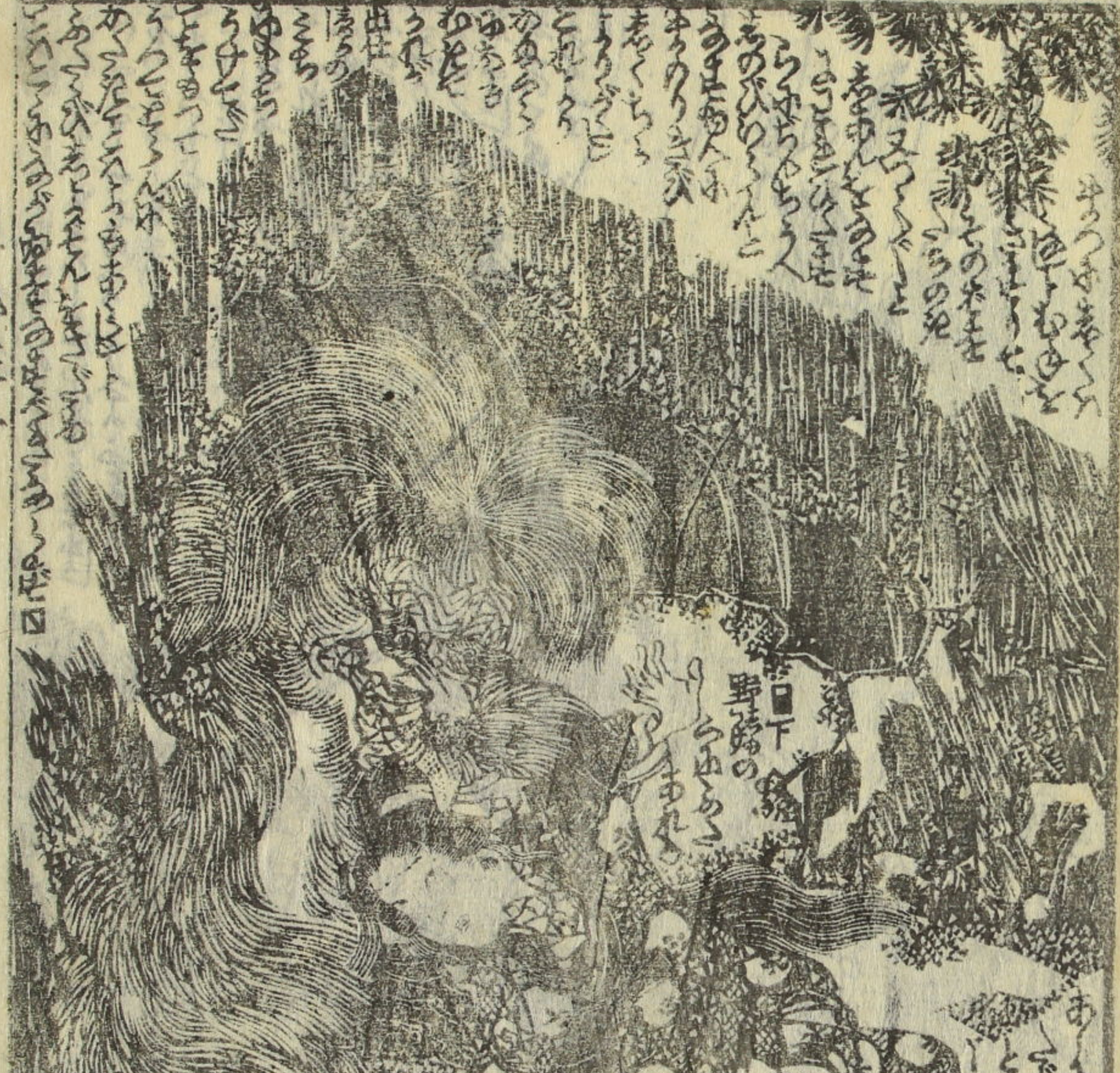
Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the bottom of the left page.



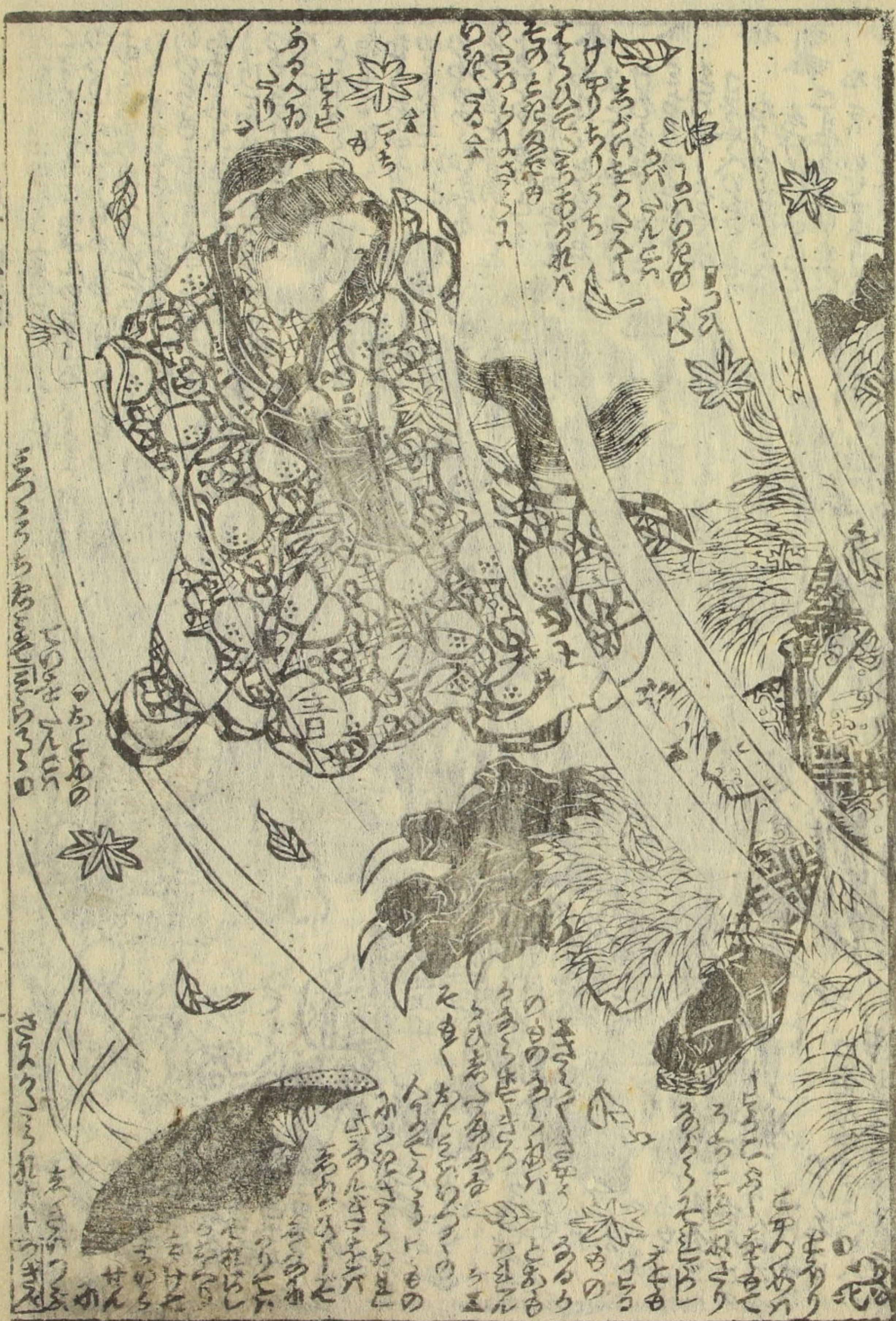
○唐の... 漢の... 魏の... 晋の... 宋の... 齊の... 梁の... 陳の... 周の... 隋の... 唐の... 宋の... 元の... 明の... 清の... 宣統の...



○唐の... 漢の... 魏の... 晋の... 宋の... 齊の... 梁の... 陳の... 周の... 隋の... 唐の... 宋の... 元の... 明の... 清の... 宣統の...



此物名曰... 唐仁... 卷二... 此物名曰... 唐仁... 卷二... 此物名曰... 唐仁... 卷二...

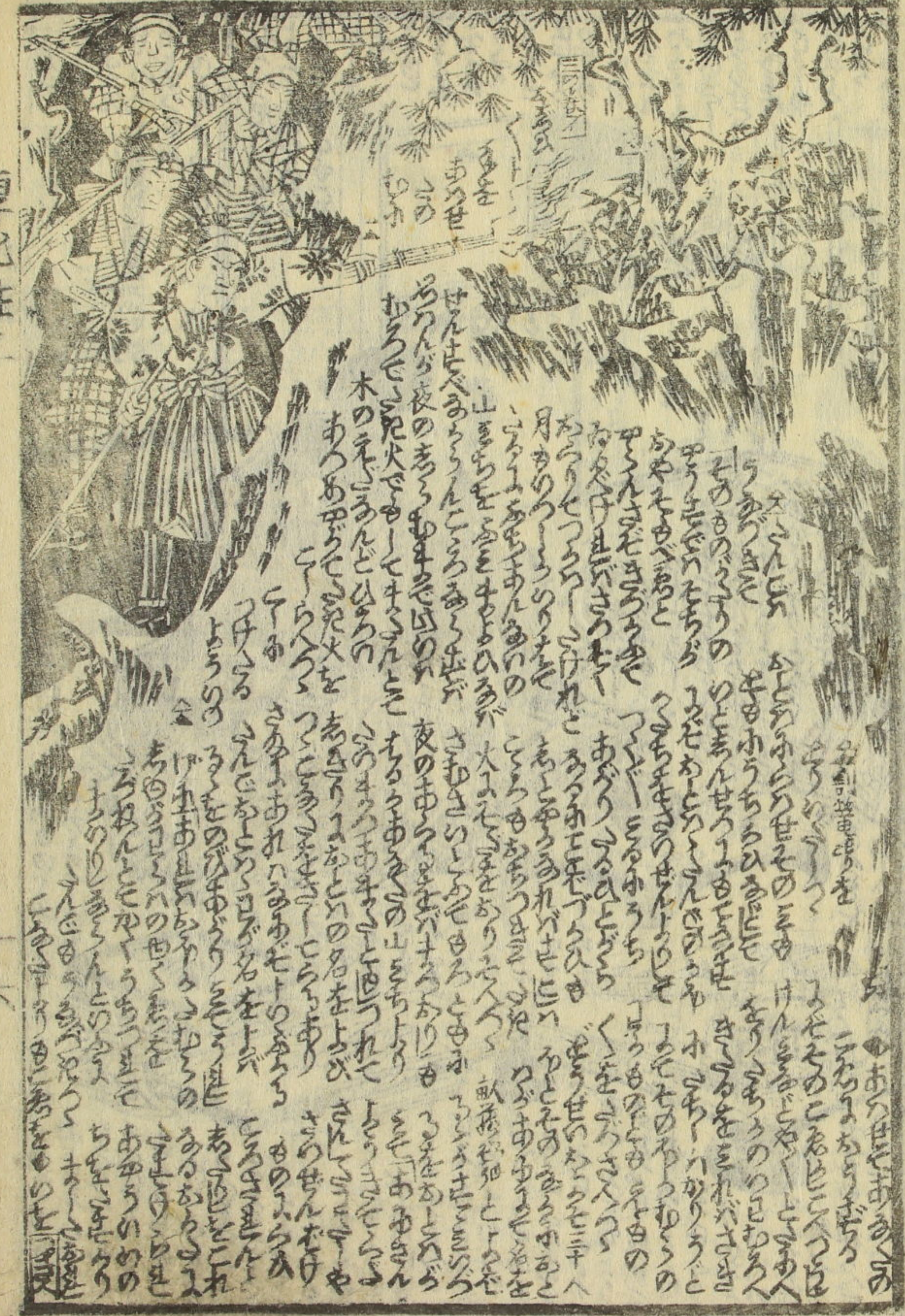


此物名曰... 唐仁... 卷二... 此物名曰... 唐仁... 卷二... 此物名曰... 唐仁... 卷二... 此物名曰... 唐仁... 卷二...



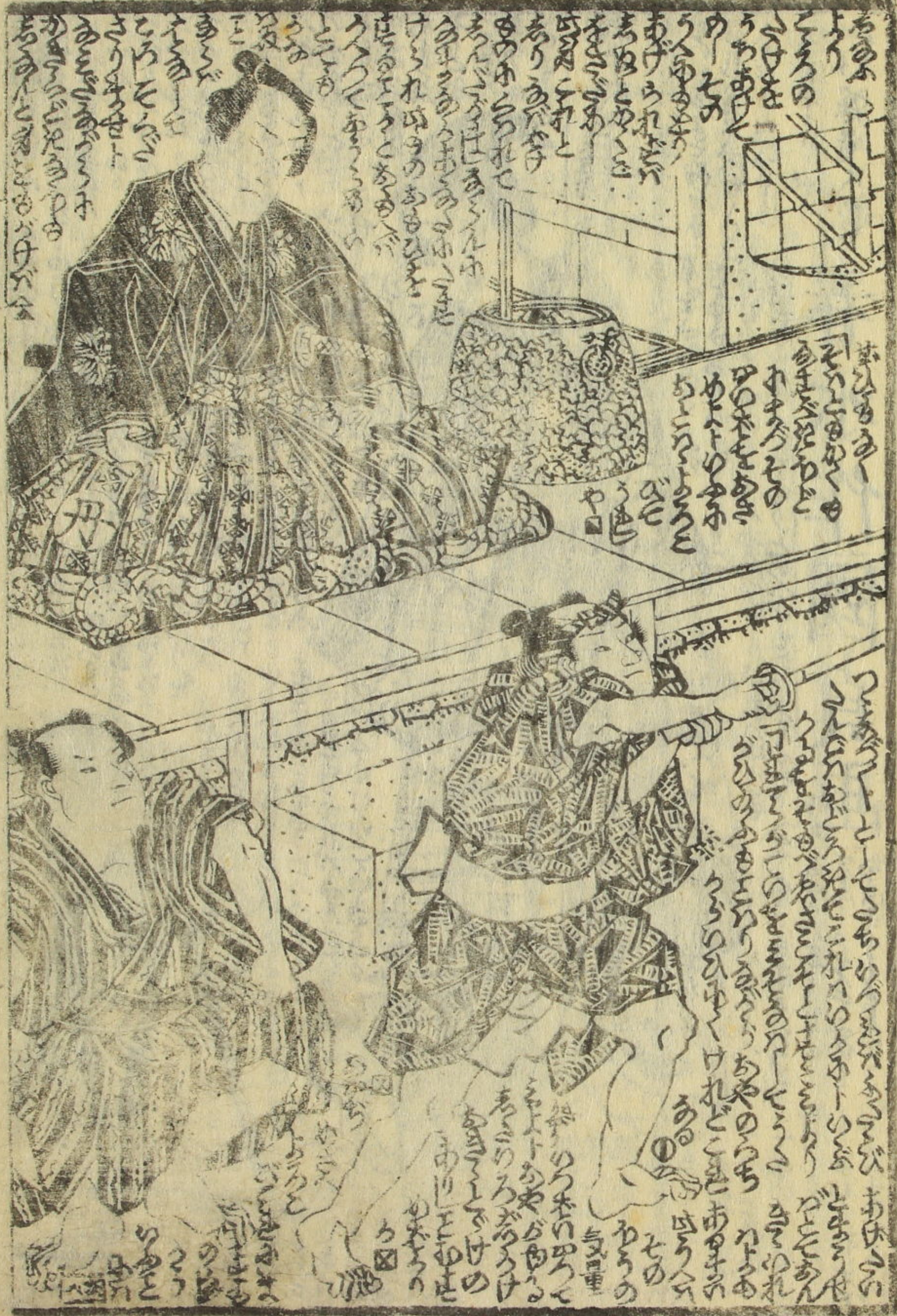
昔の事のあらはるるに
 けしきしうとらふのやうに
 ありしにちかやふれん
 りのちもあつたに
 おまはるひもあつたに
 ついでにたはれし
 とらふとらふ
 柏尾結むら
 曾茂五五と
 りゆめのつむはあ
 その名を音利と
 出流のつむはあ
 ちん八とつむはあ
 けのつむはあ
 三日月のつむはあ
 ちん八とつむはあ
 ちん八とつむはあ
 ちん八とつむはあ

あつたにちかやふれん
 りのちもあつたに
 おまはるひもあつたに
 ついでにたはれし
 とらふとらふ
 柏尾結むら
 曾茂五五と
 りゆめのつむはあ
 その名を音利と
 出流のつむはあ
 ちん八とつむはあ
 けのつむはあ
 三日月のつむはあ
 ちん八とつむはあ
 ちん八とつむはあ
 ちん八とつむはあ



あつたにちかやふれん
 りのちもあつたに
 おまはるひもあつたに
 ついでにたはれし
 とらふとらふ
 柏尾結むら
 曾茂五五と
 りゆめのつむはあ
 その名を音利と
 出流のつむはあ
 ちん八とつむはあ
 けのつむはあ
 三日月のつむはあ
 ちん八とつむはあ
 ちん八とつむはあ
 ちん八とつむはあ





日標板聞春陽辰戊年四應慶

<p>七必 葛飾譚 編種 貞重作</p>	<p>薄倂幻日記 編種 貞重作</p>	<p>童謡妙々車 編種 貞重作</p>	<p>假名情談戀畦倉 編種 貞重作</p>	<p>室山源氏胡蝶巻 編種 貞重作</p>	<p>新局九尾傳 編種 貞重作 梅蝶樓國貞重作</p>
<p>南傳馬助 葛屋吉口藏板</p>	<p>犬傳犬の双紙 編種 貞重作</p>	<p>花封苔玉草 編種 貞重作</p>	<p>明鴉墨画通福福 編種 貞重作</p>	<p>筆法海四國聞書 編種 貞重作</p>	

朝牛肉丸 大百金三味 小百百兩
此二品の補ひなきは 廿の年の補ひなきは 此れは下巻の補ひなきは 此れは下巻の補ひなきは 此れは下巻の補ひなきは

春水作國貞画

此の巻は 春水の物語を 國貞が画したるものなり 此の巻は 春水の物語を 國貞が画したるものなり 此の巻は 春水の物語を 國貞が画したるものなり 此の巻は 春水の物語を 國貞が画したるものなり

